

友人関係行動チェックリスト再検討の試み

土 本 將 貴

友人関係行動チェックリスト再検討の試み

Reexamination of Friend Observation Checklist

土 本 將 貴

問 題

私たちは、日常生活の中で様々な対人関係を形成している。その1つとして友人関係というものがあり、私たちにはそれぞれ友人がいる。私たちの中には、友人の多い人もいれば、少ない人もいるだろう。それでも、私たちは、複数の友人と友人関係を結んでいるといえる（渡辺・今川, 2011）。しかし、すべての友人と同じように付き合うというのではなく、実際には親しく付き合っている友人もいれば、あまり親しくはない友人もいるだろう。つまり、同じ友人の中でも親密さの程度に違いがあるということである。それは、対人関係というものは、常に同じ状態を保っているわけではなく、変化していくものであるということを考えて自然なことであろう。ようするに、私たちは、友人との様々な相互作用を通して、親しくなったり、親しくならなかったりしながら生活しているといえる。

このような親密化のプロセスを親密化過程と呼ぶ。親密化過程（close relationship process）とは、人と人が出会い互いに親しくなる過程である（松井, 2005）。親密化過程に関する理論に、Altman & Taylor (1973) の社会的浸透理論（social penetration theory）がある。この理論では、対人的交換は、内容の領域に関する「広さ（breadth）」と親密性のレベルに関する「深さ（depth）」という2次元で行われ、対人関係が進展するにつれ、狭い領域での表面的な相互作用から広い

領域での親密な相互作用へと進行していくとされている。

対人関係の親密さの程度を扱う指標には、主観的な親密さ、知り合ってから期間、接触頻度などが考えられる。しかし、調査協力者自身による友人との主観的な親密さというものを考えた場合には、調査協力者の判断の仕方による違いがでてしまうだろう。また、客観性を保つために、知り合ってから期間や接触頻度というものも考えられるが、知り合ってから期間が長くてもあまり深く関わっていないということや、接触する機会が多くても関わり方が浅いということが想定できることから、必ずしも知り合ってから期間が長いことや接触頻度が多いことがより親密な関係にあるとはいえないだろう。これらのことから、友人との関わり方という友人関係の行動的側面によって親密さの程度を捉えようとすることは重要である。

友人関係の行動的側面を捉える指標として、Hays (1984, 1985) のFOC (Friend Observation Checklist) というものがあり、本邦でも和田・廣岡・林 (1986)、中村 (1989)、山中 (1994) によって作成されている。しかし、現在の友人関係の中で見られる行動の違いや、その行動を経験する親密さの程度が変化している可能性もあるだろう。そこで、実際の対人関係を扱う上では、親密化のプロセスを考慮することは必要なことであり、親密さの程度を行動的側面から捉えようとすることは妥当であると考えられるが、現在では十

分に親密さの程度を測定できる指標がないことから、この指標についても一度検討を行い、正確に友人関係の親密さを捉えられる指標にすることも必要であろう。

目 的

本研究では、これまでに作成された和田・廣岡・林（1986）や山中（1994）などの友人関係行動チェックリストを再検討するために、新たに友人関係行動について項目を収集し、広さ次元の分類と深さ次元の分類を行うことを目的とする。

調査 1

目的

新たに友人関係行動について項目を収集し、広さ次元の分類を行う。

方法

1. 調査協力者

北星学園大学の学生を対象に質問紙調査を行い、45名（男性11名・女性34名・平均年齢21.67歳）を分析対象とした。

2. 調査時期

2010年9月28日から2010年10月15日までの講義時間内に調査を行った。

3. 調査方法

それぞれの講義時間中に友人関係に関するアンケートとして質問紙について説明し、調査協力者に質問紙を配付して、その場で回答させ、回収した。

4. 質問紙の構成

(1) 基本的属性

性別・年齢を記入させた。

(2) 対象となる友人の想定

調査協力者には最初に教示文において、「現在日常生活の中でよく接触する最も親しい同性の友人」を想定させ、その人物のイニ

シャルまたはニックネームを解答欄に記入させた。

(3) 友人関係行動

想定した友人との付き合いの中で今までしてきたことを、思いつくままにできるだけたくさん自由記述で回答させた。

結果

初めに、友人との付き合いの中で経験したことに関する自由記述によって収集された回答について、どのような行動内容が見られるかを検討するために、指導教員1名と大学院生5名の計6名でKJ法を行った。その結果、映画を見る、一緒に映画を見たなどの「映画」、TVを見る、ドラマを見るなどの「テレビ」、喫茶店でお話、喫茶店でコーヒーを飲むなどの「カフェ（喫茶店）」、ご飯を食べに行った、一緒に食事に行くなどの「食事」、お酒を飲みに行った、お酒を飲んだりするなどの「飲む」、旅行する、一緒に旅行などの「旅行」、一緒にドライブした、ドライブに行くなどの「ドライブ」、CDを聴くなどの「音楽」、同じアルバイト先でアルバイト、一緒に短期バイトなどの「アルバイト」、DVD鑑賞、DVDを観るなどの「DVD」、ライブに行く、コンサートに行くなどの「コンサート」、テスト勉強をした、一緒に勉強するなどの「勉強」、ゲーセン、ゲーセンに行くなどの「ゲームセンター」、カラオケに行く、カラオケをするなどの「カラオケ」、漫画や小説を読む、読書などの「本」、買い物に行く、ショッピングをするなどの「ショッピング」、散歩、ぶらぶら歩くなどの「散歩」、プロ野球観戦に行ったなどの「スポーツ観戦」、サークルで一緒に活動、一緒にサークルに入るなどの「サークル活動」、パチンコに行ったなどの「ギャンブル」、テレビゲーム、ゲームしたなどの「ゲーム」、サッカー、野球などの「スポーツ」、キャンプする、キャンプ行ったなどの「アウトドア」、家に遊びに来る

(行く)、家に遊びに行き来したなどの「家に行く、来る」、泊まった、家に泊まり合うなどの「泊まり」、互いの家族に会う、父と母に会わせたなどの「家族に会う」、電話をした、電話で話したなどの「電話」、相談にのった、相談するなどの「相談」、一緒に泣くなどの「泣く」、いろいろ話した、おしゃべりするなどの「雑談」、メールする、メールのやりとりをしたなどの「メール」、twitterで連絡をとる、mixiでの交流などの「インターネット」、注意される、悪い所は話し合うなどの「注意」、物の貸し借り、金借りた、貸したなどの「貸し借り」、おごった、おごったりおごられたりなどの「おごる」、バカなことを度々した、ちょっかいをかけるなどの「悪ふざけ」、プレゼントをあげた、家族で行った旅行のお土産をわたすなどの「プレゼント」、口げんか、けんかをしたなどの「けんか」が分類された。なお、出現頻度が少なく、複数の回答が得られなかった行動内容については、カテゴリーとして分類できなかったため、その他として除外した (Table 1参照)。

次に、山中 (1994) に基づき、社会的浸透理論の広さ (breadth) の次元については、対人的相互作用の内容に関して、Companionship：一緒に活動や経験を共有する。一緒に何かを行い、お互いの交際を共有する。Communication：(言語的あるいは非言語的に) 自分自身に関する情報を開示したり、話し合っ

たりする。Consideration：‘helper’としての友人の役割を果たす。つまり、物・サービス・サポートを提供する。Affection：他者に対して感じたいかなるセンチメント (ポジティブであろうとネガティブであろうと) をも表す、パートナーとの間の情緒的絆を表す。という4つの領域を設定し、指導教員1名と大学院生5名の計6名で、自由記述によって得られた行動内容を踏まえ、これまでの友人関係行動チェックリストでは不足していた行動内容を他の指標を参考にして補い、それでも不十分である場合には新たに追加するという方法により、和田・廣岡・林 (1986) から29項目、山口・今川 (2010) から24項目、自由記述の結果から9項目を選定し、62項目からなる友人関係に関する行動チェックリストを作成した (Table 2参照)。

調査2

目的

調査1で作成した友人関係行動チェックリストについて、深さ次元の分類を行う。

方法

1. 調査協力者

北星学園大学の学生89名 (男性21名・女性68名) を対象に質問紙調査を行い、不備のなかった86名 (男性18名・女性68名・平均年齢20.88歳) を分析対象とした。

Table 1 友人関係行動のカテゴリー

映画	テレビ	カフェ (喫茶店)	食事	飲む
旅行	ドライブ	音楽	アルバイト	DVD
コンサート	勉強	ゲームセンター	カラオケ	本
ショッピング	散歩	スポーツ観戦	サークル活動	ギャンブル
ゲーム	スポーツ	アウトドア	家に行く、来る	泊まり
家族に会う	電話	相談	泣く	雑談
メール	インターネット	注意	貸し借り	おごる
悪ふざけ	プレゼント	けんか		

Table 2 友人関係行動チェックリスト項目

Companionship	
1. 映画を見た	14. カラオケに行った
2. テレビを見た	15. 本・雑誌・漫画を見た
3. カフェ（喫茶店）に行った	16. ショッピングをした
4. 食事に行った	17. 散歩をした
5. 飲みに行った	18. スポーツ観戦をした
6. 泊りがけの旅行に行った	19. サークル活動に参加した
7. ドライブに行った	20. パチンコ・パチスロ・競馬に行った
8. 音楽を聴いた	21. ゲームをした
9. 同じ所でアルバイトをした	22. スポーツをした
10. DVD・ビデオを見た	23. アウトドア（キャンプ・釣り・登山・ピクニックなど）
11. コンサートに行った	24. 家に行った
12. 勉強した	25. 家に泊まった
13. ゲームセンター・アミューズメント施設に行った	26. 家族に会った
Communication	
27. 冗談を言った	35. 異性関係を詳しく話した
28. ともに知っている人について話をした	36. 第三者との関係で生じた問題事や悩みを相談した
29. 趣味や関心事について話した	37. 小さい頃の写真を見せた
30. 喜びを知らせた	38. 涙を流して泣いた
31. 家族のことを話した	39. 雑談をした
32. 非常に個人的な事について話した	40. メールをした
33. 電話で話をした	41. SNS（mixi など）でやりとりした
34. 将来の夢について話した	42. アドバイスや注意をした
Consideration	
43. 頼み事を引き受けた	49. 個人的で重要な問題について相談にのった
44. 個人的な用事のためについていった	50. こまかいことまでもめんどろをみた
45. お金や物を借りた	51. 第三者との議論でかばった
46. いろいろなことに気を使った	52. 勉強で助けた
47. 落ち込んでいた時に慰めようとした	53. おごった
48. いつも気持ちを理解できた	
Affection	
54. 悪ふざけをした	59. した事を大いに褒めた
55. ちょっとした頼み事をした	60. 旅行のお土産やプレゼントをあげた
56. ニックネームで呼んだ	61. 一緒にいない時は寂しいと話した
57. 失敗を許した	62. けんかをした
58. ことあるごとに誘った	

2. 調査時期

2010年12月9日の講義時間内に調査を行った。

3. 調査方法

それぞれの講義時間中に友人関係に関するアンケートとして質問紙について説明し、調査協力者に質問紙を配付して、その場で回答させ、回収した。

4. 質問紙の構成

(1) 基本的属性

性別・年齢を記入させた。

(2) 対象となる友人の想定

山中(1994)を参考に、調査協力者には最初に教示文において、現在日常生活で接触する友人の中から「最も親しい同性の友人」、「ある程度親しい同性の友人」、「会えば話をする程度の同性の友人」、「顔や名前を知っている程度の同性の友人」という4人の人物を想定させ、その人物のイニシャルまたはニックネームを解答欄に記入させた。

(3) 友人関係行動

調査1で作成した友人関係行動チェックリストを使用し、62項目すべてについて想定したそれぞれの友人と今まで二人の付き合いの中でしたことがあれば○を、したことがなければ×を解答欄に記入させ、2段階で評定させた。

結果

山中(1994)に基づき、深さ(depth)の次元については、「顔や名前を知っている程度の同性の友人」(親密性レベル1)、「会えば話をする程度の同性の友人」(親密性レベル2)、「ある程度親しい同性の友人」(親密性レベル3)、「最も親しい同性の友人」(親密性レベル4)という4つの親密性レベルを設定し、各項目の経験率を、親密性レベル1から親密性レベル4の順に並べたとき、最初に20%を越えた親密性レベルをその項目の親密性レベルとした。例えば、「映画を見た」

という項目は、「顔や名前を知っている程度の同性の友人」とは全調査協力者の2.33%がこれまでにしたことがあると回答し、「会えば話をする程度の同性の友人」とは6.98%、「ある程度親しい同性の友人」とは29.07%、「最も親しい同性の友人」とは55.81%の経験率であった。よって、この項目の親密性レベルは“3”とした。このように、4つの広さの次元ごとに各項目を4つの親密性レベルに分類した(Table 3、Table 4参照)。

考 察

調査1では、現在の友人関係の中で見られる行動に違いがでていいる可能性が考えられたことから、新たに友人関係行動について項目を収集し、広さ次元の分類を行った。その結果、和田・廣岡・林(1986)と比較して、「テレビ」、「カフェ(喫茶店)」、「アルバイト」、「DVD」、「ゲームセンター」、「カラオケ」、「本」、「ショッピング」、「散歩」、「スポーツ観戦」、「サークル活動」、「ギャンブル」、「アウトドア」、「家族に会う」、「雑談」、「メール」、「インターネット」、「注意」、「おごる」、「けんか」という20カテゴリーを新たに収集することができ、友人関係行動について新しく多くのカテゴリーを収集することができた。

これにより、広さ次元の分類に合わせて、友人関係行動チェックリスト項目の修正を行い、Companionshipについては、「テレビ」、「カフェ(喫茶店)」、「アルバイト」、「DVD」、「ゲームセンター」、「カラオケ」、「本」、「ショッピング」、「散歩」、「スポーツ観戦」、「サークル活動」、「ギャンブル」、「アウトドア」、「家族に会う」というこれまでとは異なる行動内容が多く得られたことから、現在の友人関係行動に関する内容を反映しており、より自由記述の結果と一致する山口・今川(2010)を用いることにし、Communicationについては、「メール」や「インターネット」

Table 3 友人関係行動の経験率と親密性レベル

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル
Companionship											
1. 映画を見た	2.33%	6.98%	29.07%	55.81%	3	14. カラオケに行った	9.30%	33.72%	80.23%	89.53%	2
2. テレビを見た	5.81%	20.93%	58.14%	76.74%	2	15. 本・雑誌・漫画を見た	5.81%	26.74%	62.79%	86.05%	2
3. カフェ（喫茶店）に行った	4.65%	20.93%	54.65%	80.23%	2	16. ショッピングをした	3.49%	17.44%	52.33%	89.53%	3
4. 食事に行った	12.79%	41.86%	84.88%	96.51%	2	17. 散歩をした	1.16%	16.28%	34.88%	62.79%	3
5. 飲みに行った	19.77%	48.84%	74.42%	82.56%	2	18. スポーツ観戦をした	1.16%	3.49%	8.14%	22.09%	4
6. 泊りかけの旅行に行った	3.49%	19.77%	27.91%	51.16%	3	19. サークル活動に参加した	8.14%	23.26%	29.07%	44.19%	2
7. ドライブに行った	2.33%	5.81%	16.28%	39.53%	4	20. パチンコ・パチスロ・競馬に行った	1.16%	0%	1.16%	4.65%	なし
8. 音楽を聴いた	5.81%	27.91%	65.12%	82.56%	2	21. ゲームをした	3.49%	13.95%	32.56%	62.79%	3
9. 同じ所でアルバイトをした	0%	2.33%	6.98%	10.47%	なし	22. スポーツをした	3.49%	15.12%	38.37%	63.95%	3
10. DVD・ビデオを見た	3.49%	12.79%	32.56%	61.63%	3	23. アウトドア（キャンプ・釣り・登山・ピクニックなど）	2.33%	5.81%	17.44%	37.21%	4
11. コンサートに行った	0%	5.81%	8.14%	27.91%	4	24. 家に行った	3.49%	17.44%	40.70%	69.77%	3
12. 勉強した	22.09%	43.02%	72.09%	86.05%	1	25. 家に泊まった	2.33%	9.30%	27.91%	52.33%	3
13. ゲームセンター・アミューズメント施設に行った	2.33%	22.09%	62.79%	83.72%	2	26. 家族に会った	1.16%	10.47%	27.91%	55.81%	3
Communication											
27. 冗談を言った	31.40%	75.58%	96.51%	100%	1	35. 異性関係を詳しく話した	4.65%	25.58%	55.81%	81.40%	2
28. ともに知っている人について話した	37.21%	81.40%	97.67%	98.84%	1	36. 第三者との関係で生じた問題や悩みを相談した	3.49%	16.28%	59.30%	90.70%	3
29. 趣味や関心事について話した	26.74%	72.09%	95.35%	100%	1	37. 小さい頃の写真を見せた	0%	4.65%	10.47%	30.23%	4
30. 喜びを知らせた	8.14%	45.35%	88.37%	100%	2	38. 涙を流して泣いた	0%	4.65%	11.63%	39.53%	4
31. 家族のことを話した	6.98%	27.91%	72.09%	95.35%	2	39. 雑談をした	55.81%	82.56%	96.51%	98.84%	1
32. 非常に個人的な事について話した	4.65%	19.77%	59.30%	91.86%	3	40. メールをした	30.23%	79.07%	96.51%	100%	1
33. 電話で話をした	3.49%	23.26%	66.28%	89.53%	2	41. SNS（mixi など）でやりとりした	13.95%	30.23%	53.49%	51.16%	2
34. 将来の夢について話した	4.65%	27.91%	59.30%	72.09%	2	42. アドバイスや注意をした	4.65%	37.21%	76.74%	96.51%	2
Consideration											
43. 頼み事を引き受けた	6.98%	48.84%	76.74%	97.67%	2	49. 個人的で重要な問題について相談にのった	3.49%	15.12%	43.02%	77.91%	3
44. 個人的な用事のためにいった	4.65%	16.28%	44.19%	82.56%	3	50. こまかいことまでもめんどろをみた	2.33%	10.47%	27.91%	45.35%	3
45. お金や物を借りた	4.65%	15.12%	50.00%	77.91%	3	51. 第三者との議論でかばった	0%	12.79%	25.58%	38.37%	3
46. いろいろなことに気を使った	17.44%	46.51%	66.28%	73.26%	2	52. 勉強で助けた	8.14%	29.07%	50.00%	70.93%	2
47. 落ち込んでいた時に慰めようとした	4.65%	30.23%	63.95%	89.53%	2	53. おごった	4.65%	5.81%	31.40%	48.84%	3
48. いつも気持ちを理解できた	2.33%	11.63%	19.77%	45.35%	4						
Affection											
54. 悪ふざけをした	12.79%	34.88%	65.12%	82.56%	2	59. した事を大いに褒めた	5.81%	17.44%	43.02%	60.47%	3
55. ちょっとした頼み事をした	9.30%	43.02%	79.07%	97.67%	2	60. 旅行のお土産やプレゼントをあげた	2.33%	13.95%	56.98%	83.72%	3
56. ニックネームで呼んだ	26.74%	55.81%	73.26%	76.74%	1	61. 一緒にいない時は寂しいと話した	0%	3.49%	15.12%	39.53%	4
57. 失敗を許した	11.63%	33.72%	72.09%	89.53%	2	62. けんかをした	2.33%	4.65%	13.95%	33.72%	4
58. ことあるごとに誘った	1.16%	5.81%	27.91%	61.63%	3						

Table 4 友人関係行動チェックリスト項目の親密性レベル

深さ(親密性のレベル)	広さ(内容の領域)			
	Companionship	Communication	Consideration	Affection
レベル1	12. 勉強した	27. 冗談を言った 28. ともに知っている人について話をした 29. 趣味や関心事について話した 39. 雑談をした 40. メールをした		56. ニックネームで呼んだ
レベル2	2. テレビを見た 3. カフェ(喫茶店)に行った 4. 食事に行った 5. 飲みに行った 8. 音楽を聴いた 13. ゲームセンター・アミューズメント施設に行った 14. カラオケに行った 15. 本・雑誌・漫画を見た 19. サークル活動に参加した	30. 喜びを知らせた 31. 家族のことを話した 33. 電話で話をした 34. 将来の夢について話した 35. 異性関係を詳しく話した 41. SNS (mixi など) でやりとりした 42. アドバイスや注意をした	43. 頼み事を引き受けた 44. いろいろなことに気を使った 47. 落ち込んでいた時に慰めようとした 52. 勉強で助けた	54. 悪ふざけをした 55. ちょっとした頼み事をした 57. 失敗を許した
レベル3	1. 映画を見た 6. 泊りがけの旅行に行った 10. DVD・ビデオを見た 16. ショッピングをした 17. 散歩をした 21. ゲームをした 22. スポーツをした 24. 家に行った 25. 家に泊まった 26. 家族に会った	32. 非常に個人的な事について話した 36. 第三者との関係で生じた問題事や悩みを相談した	44. 個人的な用事のためにいった 45. お金や物を借りた 49. 個人的で重要な問題について相談にのった 50. こまかいことまでもめんどろをみた 51. 第三者との議論でかばった 53. おごった	58. ことあるごとに誘った 59. した事を大いに褒めた 60. 旅行のお土産やプレゼントをあげた
レベル4	7. ドライブに行った 11. コンサートに行った 18. スポーツ観戦をした 23. アウトドア(キャンプ・釣り・登山・ピクニックなど)	37. 小さい頃の写真を見せた 38. 涙を流して泣いた	48. いつも気持ちを理解できた	61. 一緒にいない時は寂しいと話した 62. けんかをした

※Companionshipの「9. 同じ所でアルバイトをした」、「20. バチンコ・パチスロ・競馬に行った」は、深さ次元の分類において分類されなかったため除外した

という現在だからこそあるコミュニケーション手段も反映させ、「電話で話をした」だけではなく、「メールをした」や「SNS (mixi など) でやりとりした」などの項目を追加した。また、ConsiderationとAffectionについては、「おごる」や「けんか」というよう

なこれまでの友人関係行動チェックリストにはなかったが、友人関係の中ではずっと見られるような行動内容が得られ、「おごった」や「けんかをした」などの項目も追加し、さらに「贈物」を「プレゼント」としたなど言葉の表現についても改めるということを行っ

た。

これらのことから、現在の友人関係の中で見られる行動を正確に捉えるために十分な修正を加えることができたと考えられる。よって、和田・廣岡・林（1986）とは異なる行動内容も得られ、友人関係の中で見られる行動に違いがあったといえ、友人関係行動チェックリストを修正することによって、行動面からより正確に友人関係を捉えることができるようになったといえる。

調査2では、現在の友人関係の中で見られる行動に違いがあるだけでなく、その行動の親密性レベルにも違いがでていた可能性が考えられたことから、深さ次元の分類も行った。その結果、山中（1994）と比較して、親密性レベルが変化しているものもあった。

「スポーツをした（親密性レベル2から3）」、「頼み事を引き受けた（親密性レベル1から2）」、「お金や物を借りた（親密性レベル2から3）」のように、より親密な関係にある友人との間でしなくなったり、「家に泊まった（親密性レベル4から3）」、「異性関係を詳しく話した（親密性レベル3から2）」のように、あまり親密な関係にない友人との間でもするようになったなど、友人関係の中で経験する行動の親密性レベルが高くなったもの、逆に親密性レベルが低くなったものもあり、両方のパターンによる変化が見られていた。中には、「将来の夢について話した（親密性レベル2のまま）」や「涙を流して泣いた（親密性レベル4のまま）」のように、親密性レベルが変化していない項目もあり、すべての項目が変化しているというものでもなかった。

これらのことから、山中（1994）で作成された友人関係行動チェックリスト項目をすべて確認することができない状況にあったとはいえ、比較検討することができた項目の中で、親密性レベルが変化していた項目が見られたことから考えても、現在の友人関係の中で経

験する行動の親密さが変化しているというには十分であると考えられる。よって、現在の友人関係の中で見られる行動に違いが見られ、さらにその行動を経験する親密さの程度も変化していたといえ、友人関係行動チェックリストの行動内容だけではなく、親密性レベルも修正することによって、行動面からより正確に現在の友人関係の親密さを捉えることができるようになったといえる。

最後に、本研究の問題点としては、男性の調査協力者が女性の調査協力者と比較して少なめであったことが考えられる。これは、和田（1993）によって示されているように、男性は同じことをするのが好きな人を友人として求め、女性は物事について同じように感じてくれる人を友人として求めるという性差が友人関係には見られることを考えると、友人関係行動チェックリストの中で性別の違いが影響を及ぼす行動内容もあるかもしれず、男女の割合の違いが本研究の結果に反映されている部分もあり得ることが予想される。また、結果の一般化という視点では、本研究の結果は特定の集団内における調査結果であり、単純に調査対象自体による結果の偏りがある可能性も考えられるだろう。そこで、今後の課題としては、男性の調査協力者を増やし、男女の割合を同等にすることに加えて、他の集団でも調査を実施するというを行い、一般化に向けたさらなる検討をする必要があると考える。

付記

本論文は、2011年度北星学園大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻社会・発達心理学領域において修士論文として作成したものの一部に加筆、修正を加えたものである。論文の一部は、北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会（2011）にて発表された。本論文をまとめるにあたり、熱心なご指導・多くのご助言をいただきました今川民雄教授

に厚く感謝申し上げます。

引用文献

- Altman, I. & Taylor, D. A. 1973 *Social penetration : The development of interpersonal relationships*. New York : Holt, Rinehart, & Winston.
- Hays, R. B. 1984 The development and maintenance of friendship. *Journal of Social and Personal Relationships*, 1, 75-97.
- Hays, R. B. 1985 A longitudinal study of friendship development. *Journal of Personality and Social Psychology*, 48, 909-924.
- 松井 豊 2005 親密化過程 中島義明・繁枘算男・箱田祐司(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣ブックス p.372-373.
- 中村雅彦 1989 大学生の友人関係の発展過程に関する研究(1) - 関係性の初期差異化現象に関する検討 - 日本グループ・ダイナミックス学会第37回大会発表論文集, 65-66.
- 和田 実 1993 同性友人関係: その性および性役割タイプによる差異 社会心理学研究, 8, 67-75.
- 和田 実・廣岡秀一・林 文俊 1986 大学生の交友関係の進展に関する研究(1) 日本社会心理学会第27回・日本グループ・ダイナミックス学会第34回合同大会発表論文集, 73-74.
- 渡辺 舞・今川民雄 2011 大学新入生の友人選択状況が親密化過程に及ぼす影響 社会心理学研究, 27, 31-40.
- 山口 司・今川民雄 2010 PDRにおける行動特性としての親密性の検討 - 恋人関係と異性友人関係との比較を通じて - 対人社会心理学研究, 10, 163-168.
- 山中一英 1994 対人関係の親密化過程における関係性の初期分化現象に関する検討 実験社会心理学研究, 34, 105-115.

